「学ぶ意欲を持ち続ける生徒の育成」
～めあての提示と振り返り活動の工夫を通して～

Ⅰ　教育概要

1　学校教育目標と経営方針
2　本年度の努力点と達成のための重点施策
3　生徒数
4　職員組織

Ⅱ　研修の概要

1　研修主題
2　研修主題設定の理由
3　研修のねらい
4　研修の内容
5　研修組織
6　研修の経過

Ⅲ　実践内容

1　推進委員会
2　授業実践
3　アンケート結果および分析
4　校内研修だより

Ⅳ　研修のまとめと今後の課題

1　研修のまとめ
2　今後の課題

片品村立片品中学校

Ⅰ　教育概要

１　学校教育目標と経営方針

（１）　教育目標　　「豊かな人間性、生きた学力、強い身体」を磨く生徒
（２）　目指す学校像　「一人一人が認め合い、輝き合い、さわやかで活力に満ちた学校」
（３）　目指す生徒像　豊かな人間性、生きた学力、強い身体を磨くために
　○「昨日の自分を超えようとする生徒」
　○「気づき、考え、行動する生徒」
（４）　目指す教師像
　○明るく健康で人間性豊かな教師
　○教育者としての自覚と誇りある教師
　【情熱・使命感・自己研鑽（教えるプロ）・高い社会規範意識】
　○同僚性の高い教師
（５）　経営方針
　○全職員が当事者意識をもち、責任と役割の自覚に立った組織的な協働体制（態勢）の確立
　○生徒と教師間の、豊かな人間関係・信頼関係の確立
　○「昨日の自分を超えようとする生徒の育成」を目指した指導の充実

２　本年度の努力点と達成のための重点施策

（１）　「安心・安全に学べる環境」をつくる
　○施設・設備の安全管理や交通事故防止の徹底を図る。
　○地震や火災、不審者進入時の危機管理を徹底する。
（２）　「確かな学力」を身に付ける
　○授業の中で生徒一人一人を大切にする。
　○自主的な学習習慣を身に付けさせる。
（３）　「豊かな心」を育てる
　○「片品中学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめのない温かい人間関係を育てる。
　○道徳教育・人権教育を推進する。
　○時と場に応じた適切な言動を身に付けさせる。
（４）　「健やかな体」をつくる
　○基本的な生活習慣を身に付け、健康の保持・増進に努める気持ちや態度を育てる。
　○日常生活の中で運動に親しめるようにする。
（５）　「学社連携・融合の推進（開かれた学校づくりと中高一貫教育の充実）」
　○積極的な情報発信や家庭、地域との連携・協力による信頼関係・協力態勢の構築
　○尾瀬高校との連携・協力の充実による尾瀬地域中高一貫教育の推進

３　生徒数

学　年		１年		２年		３年			合　計
学　級		１組	２組	１組	２組	１組	２組	３組	
生徒数	男	７	８	７	７	１４	１５	４	６２
	女	１４	１４	１３	１２	８	８	０	６９
	小　計	２１	２２	２０	１９	２２	２３	４	
計		４３		３９		４５		４	１３１

４　職員組織

職名	氏　名	担　当	教諭	篠澤　敦子	２年主任	非常勤	金子　友美	美 術 科
校長	小野　和好	経営管理	教諭	原　　雄規	２年１組	非常勤	青木　真美	家 庭 科
教頭	根岸　浩文	企画運営	教諭	鈴木　香穂	２年２組	非常勤	野上　沙織	技 術 科
統括事務長	千明　芳夫	学校事務	教諭	岡田　秀久	３年主任	ＳＣ	青木美穂子	教育相談
教諭	吉野　康弘	教務主任	教諭	松井　　薫	３年１組	ALT	BuhayJorell	英語指導助手
教諭	岡野　典子	１年主任	教諭	塚越　　佑	３年２組	公仕	須藤　松子	用　　務
教諭	阿部　尚人	１年１組	養護	真船由美子	保　　健	公仕	飯塚　睦夫	学校施設
教諭	下山　浩平	１年２組	あ特別支援	笠原まき江	病弱補助			
教諭	中島　諒久	１年副担	あ特別支援	星野　愛美	３組補助			

Ⅱ　研修の概要

１　研修主題

研修主題　「学ぶ意欲を持ち続ける生徒の育成」

副主題　　～めあての提示と振り返り活動の工夫を通して～

２　研修主題設定の理由

昨年度までの人権教育研修の工夫や改善は継続しながら、本年度より、学ぶ意欲・学力の向上を目指して研修を進めていきたいと考えている。本校の学校教育目標の一つは「生きた学力を磨く生徒」であり、目指す生徒像は「昨日の自分を超えようとする生徒」「気づき、考え、行動する生徒」を掲げている。「生きた学力」の捉えを「協働・共生社会において活用できる知識の習得・応用力、学び合える力、学び続ける意欲」として進めていきたい。

本校生徒の実態を踏まえた課題は、以下のとおりである。①国数社理英のどの教科でも、第１学年で上昇し、第２学年で下降、第３学年では、第２学年状況の維持もしくはわずかな上昇にとどまっている（ＮＲＴ結果の考察）。②素直だが受け身の姿勢が目立ち、与えられた課題のみで学習がストップし、「もっと、さらに」といった学習し続ける意欲の不足が感じられる（日常の観察より）。③家庭学習が望ましい習慣、量として定着している生徒が少ない（ノート指導より）。

これらの実態は、学習意欲を育てる指導の工夫不足や個に寄り添った家庭学習の習慣化・生活化指導の不足が原因であると捉える。また、学習し続ける意欲の不足は、解決の見通しが持てないままに受け身な授業姿勢となっていること、活動後の「根拠や実感のある振り返り、次なる学習へのつなぎ指導の不足」等が原因として考えられる。

このような本校の課題を改善するためには、生徒に「わかった、おもしろかった」という達成感・成就感のある魅力ある授業を展開し、生徒の学習意欲を高めることが必要である。それは、学び合いを通して学び続ける意欲を育むことであり、本校学校教育目標の「生きた学力」の育成につながるものである。また、新学習指導要領の配慮事項においても、「各教科等の指導に当たっては、生徒が見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。」とある。さらに、指導者は日々の学習において意図的・計画的に「めあての提示から振り返りに至るまでの学習過程」を組み立てていく必要があり、その学習の積み重ねにより学ぶ意欲を持ち続ける生徒を育成していかなければならないと考える。全国学力学習状況調査の結果からも、めあての提示と振り返り活動の学習効果は指摘されているところでもある。生徒が導入段階で学習の見通しを確実にもつこと、展開段階で筋道を立てて考えたり、観察・実験をしたり、そこで生まれた思考を自分の言葉で表現し合うこと、まとめ段階で学習活動・内容を振り返る学習過程を重視した授業を工夫すること等の一貫性をもって実践していきたい。

これらのことから、本年度より生徒の実態に合わせ「めあての提示と振り返り活動を授業の中に積極的に取り入れていくこと」を研修の副主題とし、生徒の学び合い、学び続ける意欲を高めていきたいと考える。また、一人1授業を継続しながら、全職員でよりよい

指導のあり方について研修を重ね指導力の向上を目指していきたい。

３　研修のねらい

各教科の特性に応じて、めあての提示と振り返り活動を工夫した授業実践を継続して積み重ねることにより、学ぶ意欲を持ち続ける生徒を育成する。

４　研修の内容

（１）　めあての提示の仕方や振り返り活動についての基礎研修による共通理解
（２）　各教科の目指す生徒像の見直し
（３）　めあての提示と振り返り活動を重視した授業改善（一人1授業）

５　研修組織　　◎は主担当

組　　織構　　成　　員研修推進上の役割や主な研修内容

研修推進委員会
校長　教頭　教務
〇研修計画の立案

◎研修主任
〇全体会に提案する内容の協議

教科部会代表A・B
〇研修の課題の焦点化

〇授業実施詳細計画の作成

研
〇研修成果と課題のまとめ
修
全体会全職員〇研修内容の確認
組

教科部会A

◎鈴木

〇研修のねらいにそった指導案検討会の実施

織

岡田　岡野　塚越

〇授業の視点にそった授業参観の実施

図

原　　松井

〇授業検討会での良い点・改善点の意見交換

〇授業検討会での次回授業に向けての見通し

教科部会B

◎中島

〇研修のねらいにそった指導案検討会の実施

吉野　下山　篠澤

〇授業の視点にそった授業参観の実施

阿部　真船

〇授業検討会での良い点・改善点の意見交換

〇授業検討会での次回授業に向けての見通し

校

教

教科部会A

研修推進委員会全体会長頭 教科部会B

６　研修の経過

指は指導案検討　授は研究授業・授業検討会　□は校内研修　○は部会研修月日内容研　修　の　視　点4.4 1 本年度の研修について・前年度の引き継ぎ事項の確認4.13 2 研修主題、副主題の共通理解・研修のねらい、内容、方法の検討・確認4.27
3 本年度研修計画の確認
・研修計画書の検討と確認
指導主事要請訪問Ａに向けて
・指導案形式の検討と確認
NRT結果分析について
・各学年、各教科での分析依頼
・各部会の組織作りと研修内容、計画の確認6.1
4 指導主事要請訪問Ａ
・めあての提示と振り返り活動に留意した授業実践及び授業検討会
全職員授業・研修についての指導、助言6.23
授阿部教諭　体育「球技」（ネ・校内研修に基づく授業実践

ット型：バレーボール）
・部会ごとの実践の振り返りと改善①部会別研修6.29 5 A訪問指導助言の確認
・研修についての指導助言を踏まえた研修の方向性の見直し
指 校内研修アンケート実施・一人１授業の報告および部会別研修報告
・今後の予定の確認7.8授 篠澤教諭　理科「動物のから・校内研修に基づく授業実践
だのつくりとはたらき」
・部会ごとの実践の振り返りと改善②部会別研修7.21
アンケート結果学年別課題検討会
・アンケート結果の分析をもとに、学年ごとに課題7.22
を明らかにして２学期の授業改善に生かす。
7.28　２１日（１年）　２２日(３年)　２８日（２年）8.31
6 研修経過の確認
・研修について、今後の方向性の確認

部会報告・一人１授業の報告および部会別研修報告
・今後の予定の確認9.15授岡田教諭　国語「俳句の世界」・校内研修に基づく授業実践
③部会別研修・部会ごとの実践の振り返りと改善9.28
7 B訪問指導案１次検討会
・Ｂ訪指導案検討

指 塚越教諭 社会「わたした・一人１授業の報告および部会別研修報告
ちのくらしと経済」・今後の予定の確認9.30授中島教諭　理科「身の回りの物・校内研修に基づく授業実践

質」（小単元「水溶液の性質」）
・部会ごとの実践の振り返りと改善④部会別研修10.15授吉野教諭　数学「２乗に比例す・校内研修に基づく授業実践
る関数」
・部会ごとの実践の振り返りと改善
授岡野教諭　国語「討論ゲームを〈部会別研修の話し合いの視点〉
しよう」
①抽出生徒の様子
⑤部会別研修 ②学習過程にそって検討
③授業からの学びと今後の活用について10.19
8B訪問指導案２次検討会
・一人１授業の報告および部会別研修報告
指 塚越教諭 社会「わたした・Ｂ訪指導案検討
ちのくらしと経済」・今後の予定の確認10.29授下山教諭　数学「比例・反比例・校内研修に基づく授業実践
（反比例のグラフ）」
・部会ごとの実践の振り返りと改善⑥部会別研修11.2
9B訪問に向けて最終確認
・一人１授業の報告および部会別研修報告
指 塚越教諭 社会「わたした・研修における基本的考えの確認
ちのくらしと経済」
・Ｂ訪指導案最終確認および参観の視点の確認
・今後の予定の確認11.6
授松井教諭　英語「Dilo the ・校内研修に基づく授業実践
Dolphin」
・部会ごとの実践の振り返りと改善
⑦部会別研修11.9
10指導主事要請訪問Ｂ
・めあての提示と振り返り活動に留意した授業実践及び授業検討会
授塚越教諭 社会「わたした・ＫＪ法による参観者の意見交換
ちのくらしと経済」・今日の学びと明日から授業で活かすこと
・研修についての指導、助言11.12授[illegible]教諭 英語「A Work ・校内研修に基づく授業実践
Experience」
・部会ごとの実践の振り返りと改善
⑧部会別研修11.16授鈴木教諭　音楽「詩の内容・校内研修に基づく授業実践
と曲想の変化との関わりを感・部会ごとの実践の振り返りと改善じ取ろう（魔王）」
⑨部会別研修11.3011B訪問指導助言の確認と研修の修正・一人１授業の報告および部会別研修報告
・Ｂ訪問の指導の確認と今後の校内研修の修正　について
・各教科の目指す生徒像の確認12.2112研修のまとめ①・アンケート結果分析から成果

と課題の確認
・目指す生徒像の比較検討
・紀要原稿の分担と内容の確認1.18 13研修のまとめ②・紀要や研究物の作成確認と分担2.5
14研修のまとめ③
・本年度の研修の成果と課題を確認

・来年度の研修の方向性について検討
・年間指導計画の見直し3.7
15引き継ぎ事項の確認　紀要の完成
・来年度へ向けての引き継ぎ事項の確認

・来年度の研究主題、副主題の原案作成
・本年度のまとめ※その他の研修 月日区　分講　師内　　容4.14ＳＣ研修スクールカウンセラー・発達障害の理解と対応4.27食物アレルギー研養護教諭・アナフィラキシーショックの未然防止と対応修 6.29心肺蘇生法講習会東消防署職員・心臓マッサージ、人工呼吸法、AEDの使い方

Ⅲ　実践内容

１　推進委員会

（１）　委員会のねらい

校内研修を円滑に進めるために、研修の方向性を示すとともに、提案された授業について検討・修正を加えながら、校内研修の主題を達成できるよう努める。

（２）　実践内容・方法

①　校内研修の方向性を示し、修正しつつ研修の全体を推進する。
②　校内研修全体会において、司会や記録を分担して行う。
③　部会別研修の中心となって、授業後の部会別研修を行う。
④　部会別研修で検討された課題や修正案等を「校内研修だより」にまとめ発行し、全校職員で共通理解を図る。

２　授業実践

実践例１（２学年・Ａ部会）

理科学習指導案

授業の視点

自己評価の基準になるキーワードを提示したことは、生徒一人一人が自分で追究課題「なぜ？」を考えるのに有効であったか。１　単元名（題材名）　動物のからだのつくりとはたらき

２　単元の構想

（１）指導目標

実験・観察を通して、生物の身体は細胞からできていることを理解し、動物の体のつくりと働きを理解する。また、動物の生活と種類についての認識を深め、生物の変遷について理解する。

（２）単元のめあて

動物のからだや生命活動のしくみを、私たちヒトで明らかにしていこう。

・活動の対象をヒトに限定し、生徒の中に疑問や親近感を持たせる。

（３）単元の振り返り

自己評価表を用いて、追究課題に対する自分の活動を振り返る。

３　本時の学習

（１）ねらい　動物のからだや生命活動のしくみを明らかにしていくために、今までの学習内容をもとに、追究（学習）課題を考える。

（２）準備　教師：教科書・ノート・掲示用資料・自己評価表

生徒：教科書・ノート・事前アンケート用紙

（３）授業中における生徒指導

・実験や観察を行う際には必ず自分で予想をたて、結果から考察を考えさせ、それを肯定する。

・自分の考えが必ず授業の中で反映されるよう、挙手などで意見の有無を確認する。

・生徒のつぶやきや少数の意見や考えを大切にし、全員の前で紹介する。

・板書を写すことがゆっくりな生徒が多いので、書く時間を確保し、一緒に聞いて考えさせる。

（４）展開

過時学習活動

学習活動への支援・留意点

程間予想される生徒の反応

★努力を要する生徒への支援

☆おおむね満足できる生徒支援

〇前時までの学習内容を復習する。

・小学校での人体のつくり

・細胞が生物の最小構成単位であり、すべての生物は細胞からで

きていること。

把

・植物細胞と動物細胞の共通点と相違点。

10

・単細胞生物と多細胞生物。
握

・生命活動

〇既習内容の生命活動について考える。
〇上記の生命活動について考えさせ、疑問「なぜ？」を見つけさ

・生きるための活動　・寝る・呼吸
せる活動から、本時のめあてを知らせる。

・食べる　・消化　・運動　・排泄　めあて　　**ヒトのからだや生命活動のしくみの追究課題「なぜ？」を考えよう。**〇追究課題「なぜ？」を考える時の自己〇自己評価の基準（自分で・友達のヒント・今までの学習内容・　評価の基準を聞く。理由や根拠）を知らせる。

〇自分で追究課題を考える。
〇一人一人で追究課題を考えさせる。

★追究課題が書けない。
★生命活動・生きるための活動・呼吸・食べるなどを再確認し、
12
☆追究課題が書けている。
自分が調べたいことを考えることを伝える。

★今までの学習内容の中に自分が疑問に思ったことがあれば、そ

れを書かせたり、教科書やノートの内容から見つけさせる。
追

☆追究課題に理由や根拠をつけられるよう、理由や根拠を尋ねた

り、教科書やノートから見つけさせる。おおむね満足できる究

生徒への発展的な学習への手だて

〇班になり、自分で考えた追究課題を交〇班になり、お互いに追究課題を伝え合ったりヒントを出したり
換したり、
して一緒に考えさせる。
20★追究課題が書けない
★班員からヒントをもらったり、班員の考えた追究課題を聞いた☆追究課題が書けている。
りして、参考にし自分も疑問に思うことを記入させるようにする。
☆追究課題に理由や根拠をつけられるよう、理由や根拠を尋ねたり、その課題が解決すると別の課題があるかを尋ねる。 評価項目【観点】（方法：ノートへの記述）

〇理由や根拠はないが、追究課題が２つ以上ある。 【関心・意欲・態度】
◎理由や根拠のある追究課題が２つ以上ある。 【関心・意欲・態度】

振

振り返り **自己評価表に、本時の自分の活動を振り返り、記入する。**り

返

〇自己評価表に、自分が考えた追究課題〇自己評価表を配布し、自分が考えた追究課題「なぜ？」を記入り８「なぜ？」を清書し、自己評価表から本させるとともに、本時の活動を自己評価させる。
時の自分の活動を振り返る。

〇次時の説明を聞く。〇次時の説明をする。 ＊自己評価表 ２年
組 番 氏名

自分で考えた、からだや生命活動のしくみの「なぜ？」・これからの追究課題

関心・意欲ＳＡＢＣ・ 今までの学習内容をもと 今までの学習内容や友 友だちのヒントをも 追究課題を考え態に、自分で追究課題を考えだちのヒントをもとに、とに、追究課題を考えようとした。度たり、友だちにヒントを出追究課題を考え、ノートノートに表現していしたりし、ノートに理由やに理由や根拠も表現してる。根拠も表現している。い

る。　　（５）成果と課題
〇本時の授業は、単元の導入段階において生徒自身が既習内容などから課題を設定するもであった。本時の課題を解決をしていきながら授業を展開・実施し、単元の学習を進めていくためのものである。しかし、本時の課題の提示の方法では、生徒に単元を通しての課題を設定することが難しかった。
〇めあての提示に関すること
　生徒に課題となる「なぜ？」を考えさせるには、生徒に興味・関心を湧かせる「しかけ」が必要であり、既習事項をもとに考えさせる場面であったが、視聴覚教材や「なぜ？」の例を提示するなどがあると良かったと思う。教師が何を意図するのか生徒に伝わっていなかったため、「運動について」，「呼吸について」など，どのテーマに関する課題を書くのかを示し，焦点化してい方法などが生徒にはわかりやすかったと思う。
〇振り返り活動に関すること
　今回、自己評価表に基準を設けた。理科の関心意欲の評価を明確にすることができたため、生徒はそれをもとに振り返ることができたが、基準が２項目あってわかりにくいものがあったので、今後改善が必要である。
〇本時の課題の単元での生かし方
　本時の授業で生徒から出された課題は、大まかに消化・吸収・循環・排出・感覚・動作・睡眠・学習などに分け、授業の中で生徒の課題を追究していくことに使用した。今後は、このような単元のはじめの課題設定をどのように単元の追究に生かしていくのかも検討していく必要がある。

実践例２（１学年・Ａ部会）

数学科学習指導案

授業の視点
グラフについて式とグラフのつながりを実感しながら描くことに有効であったか。１
単元名　　４章　比例・反比例　（反比例のグラフ）
２　単元の構想
（１）指導目標
　具体的な事象の中から２つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見出し表現し考察する能力を培う。
（２）単元のめあて
　未来を予想する。
（３）単元の振り返り
　身の回りにある様々な事象をとらえ、比例や反比例の関係が成り立つことを見つけ出し考察する。
３　本時の学習
（１）本時のねらい
　点を多く取ることによって、反比例のグラフが滑らかな曲線であることをイメージし、

双曲線を描くことができる。
（２）準備
　学習プリント、パソコン、プロジェクター、スクリーン、生徒用電卓
（３）授業中における生徒指導
　生徒一人ひとりに声をかけたり、早くできた生徒には周りの生徒の支援をするように助言したりすることで質問をしやすい雰囲気を作る
（４）展開過時学習活動
学習活動への支援・留意点
 程間予想される生徒の反応★努力を要する生徒への支援
☆おおむね満足できる生徒支援把 5
１　宿題の答合わせをする
・一人ひとりの席をまわり、声をかけながら宿題の 握分
２　本時のめあてを確認する
チェックをする。

8

３　$y=\frac{6}{x}$ のｘ、ｙの対応表・代入計算や座標の取り方を復習しながらすすめる。

分をつくり、座標上に点を取・座標が格子点でない場合は目分量で座標を取るこ追
る。とを確認する。
究
★計算が苦手な生徒や座標の取り方を忘れている生
徒に対して個々に支援する。

☆早くできた生徒には周りの生徒の支援をするよう
に助言する。

・スライドを使って座標を確認する。
　　４　とった座標上の点から・関数のグラフが点の集合であることから、多くの
15
$y=\frac{6}{x}$ のグラフがどんな点を取ればグラフの形がわかってくることを確認
 分形をしているか予想し、詳する。

しく調べて確認する。・電卓を使って計算し、割り切れないものは小数第
三位を四捨五入して、小数第二位まで求める。
7

５　もっと詳しく調べたらど・座標上の点を多くとればとるほど、グラフの形が
分うなるかをスライドを見てわかっていく様子をスライドを使って表現する。

確認し、$y=\frac{6}{x}$ のグラフ・形がわかっていく様子を実感できるように、だん
を描く。だん取る点を増やしていく。

・グラフは方眼紙いっぱいに描くことを確認する。5

6　$y=\frac{6}{x}$ のグラフについて、★x に具体的な数値を入れて計算し、y の値の変化分①
x の値を大きくしていくに気づけるようにする。
と y の値はどうなるか、②・考察の結果から、反比例のグラフを書くときの注 x の値を
０に近づけていく意事項を確認する
と y の値はどうなるか、考｛おさえておきたい特徴｝
える・x 軸、y 軸にくっつかない。
・点対称、線対称
・$x=0$ に対応する点はない振 10　8　授業の振り返りを書く★滑らかな曲線、方眼紙い
っぱいに描くことに注意　り分する。
返☆早くできた生徒には周りの生徒の支援をするようりに助言する。（５）成果と課題
　この授業は、「比例のグラフ」の授業を受けて、「反比例のグラフ」について考え、グラフを描く技能を修得するものだった。
成果としては、「比例のグラフ」の授業と流れを同じにすることによって、生徒たちは見通しを持って授業に取り組めたと思う。見通しを持つことができた生徒は、周りの生徒と相談をして課題に取り組んだり、見通しの持てていない友達にアドバイスをしたりして積極的に授業に取り組むことができた。ICT機器を使い、点が増えていくとだんだん滑らかな曲線になっていくという、グラフのできていく様子を表現することで、生徒から「すごい」「もうすこしでできそう」などのつぶやきがあった。
課題としては、授業の進め方が固定化し、教師主導になってしまった。生徒のつぶやきから多様な考え方を引き出す工夫が必要だと感じた。また、振り返り活動を「グラフを描く活動」と設定したが、校内研修のテーマが「学び続ける意欲」なので「授業で感動したこと」や「気付いたこと」、「もっと知りたいと思ったこと」などの感想を書くことで、次の授業への意欲付けができると良いと思った。

実践例３（１学年・Ｂ部会）

英語科学習指導案

授業の視点

め 新出文法の知識を定着させるのに有効であったか。１　単元名　Program7　Dilo the Dolphin　Sunshine English Course 1

２　単元の構想

（１）指導目標

・疑問詞 who や when を用いて相手に質問をしたり答えたりする表現力を養う。

・人称代名詞の目的格を理解し、人について「～を」「～に」という言葉を正しく使うことができる。

（２）単元のめあて

・When や Who の疑問詞を用いて尋ねたり、答えたりすることができる。

・代名詞の活用を正しく習得することができる。

→自分の身の周りの人や好きな人について、友だちに紹介しよう。

（３）単元の振り返り

My project 2 で、既習事項の三人称の用法や、次の単元で学習する助動詞 can と合わせて、自分の身の周りの人々に関する紹介をする。

３　本時の学習

（１）本時のねらい

疑問詞whenを使い相手に質問をしたり、それに答えたりすることができるようになる。

（２）準備　　タイマー、ピクチャーカード、ワークシート、学習カード

（３）授業中における生徒指導

・一人一人の生徒の言動に注意し、よい発言はほめるなど自信をもたせる。

・教師が率先して傾聴したり賞賛したりして模範を示し、友達の発言や発表をしっかり聞いたり、友達の意見を認め合えたりする雰囲気をつくる。また、ペアやグループ活動を通して学びあえるような機会をつくる。

（４）展開過時

学習活動

学習活動への支援・留意点

程

間

予想される生徒の反応

★努力を要する生徒への支援

★努力を要する生徒

☆おおむねまんぞくできる生徒への支援

☆おおむね満足できる生徒 JTEALT

1　導入

一緒に挨拶をする。

・曜日、日付、天気を尋ねる。

(1) あいさつ

把 10(2) Warm-up

握・インプットシート
・時間の計測や役割交代の指示を・奇数の生徒と一緒に活動を行ペアで序数を言う練習をする。
出す。
う。
★単語の読み方がわからなくなる。
・うまく言えない生徒の補助をす
☆早く終わってしまう。
る。

★隣で読み方を教える。
☆ペアの生徒が読み方や意味がわからない場合、教えるよう声をかける。
☆シートを見ずに答えるよう声をかける。

2　展開

(1) Oral introduction
・２人で対話をし、どのような内容だったか推測させる。
追 30 疑問詞 when と一般動詞を使った文章を聞・既習の when ＋ be 動詞の文章にも触れ、復習する。
求き、内容を推測する。
(2)本時のめあての確認
・めあてを提示することで、活動

に対する意欲をもたせる。

Today’s goal を確認し、本時の最後に何

をできるようになるか意識する。

⑶新出言語材料の確認
・机間巡視で、できていない生徒
に助言する。

②基本問題に取り組む。
・机間巡視をしながら、終わった生徒の問題の採点をしていく。★わからず、つまずく。／間違えている。
★ヒントを出す。
・机間巡視で、できていない生徒☆早く終わってしまう。
☆ワークをやっているよう声をかに助言する。

ける。

(4) 新言語材料を使ったコミュニケーションを図る活動（Who am I?インタビューゲーム）
活動のデモンストレーションを行う。①教師のデモンストレーションを聞く。

②活動で用いる対話文の音読練習

・口頭練習をする。
★うまく言えない。

★机間巡視し、発音していない生
③インタビューゲーム
徒には指導を行う。・対話で使う。
机間巡視をしながら、生徒と共に会話活動をする。
★ペアが探せない。

★読み方が分からない。
★一緒に会話をしたり、他の生徒への声掛けを促す。
☆すらすら、多くの生徒と会話することがで★隣で読み方を教えながら会話させる。
きる。
☆会話文を見ずにやるよう促す。

⑤対話達成状況の確認・積極的な会話状況を賞賛する。振

り 10

返

り（知識・理解）
○３文以上、疑問文とその答えを書くことができる。
◎５文以上、疑問文とその答えを書くことができる。
・学習カードに、自己評価を記入する。（５）成果と課題
　成果としては、ウォーミングアップとしてＡＬＴ作成の新出言語材料を使ったオーラルイントロダクションで、英語で自然に新しい文法を聞き取らせるところができた。また低位の生徒でも自己有用感を感じながら繰り返し反復練習をできた。
　課題としては、支援対象生徒に十分な支援ができなかった反省から計画的な支援の必要性があげられる。また、会話活動で自由にペアを組ませる活動だと自分で相手を見つけられない生徒もいたため、隣の席同士などの工夫をすることが大切である。
実践例４（３学年・Ｂ部会）

社会科学習指導案

授業の視点
て話し合わせたことは、多面的・多角的な見方を育てる上で有効だったか。１　単元名
第４章　わたしたちのくらしと経済
２　単元の構想
（１）指導目標
　単元を通した課題を追究することで、経済に対する関心を高め、身近な経済的な事象を多面的・多角的にとらえる見方や考え方の基礎を身につけ、経済に関する課題を解決しようとする態度を養う。
（２）単元のめあて
「目指せ片品一！　片品で〇〇というお店を作ろう」
「コンビニをどこに作るか」という生徒が興味を持ちやすい活動を通して、生徒へ「片品村ではどこにお店を作るか」投げかけ、単元を通した課題を設定することで、単元を通して目的意識をもって学ぼうとする意欲を持てるよう工夫した。
（３）単元の振り返り
「既習事項を生かして企画書を作ろう」
・一時間ごとの振り返り活動で「単元を振り返る活動」に生かすことのできる知識を振り返りシートに視点とともにまとめることで、単元を通して計画的な授業を行い、生徒の理解を積み重ねていけるように工夫した。
・振り返りシートを生かして、既習事項の理解を深め、その知識を活用した企画書を作ることで、生徒の思考力・表現力を高められるよう工夫した。

３　本時の学習（１７時間中１６時間目）
（１）本時のねらい
　意見交換を生かして、多面的・多角的な見方がされた企画書をつくることができる。
（２）準備　　振り返りシート、学習プリント（企画書）、付箋紙、ホワイトボード
（３）授業中における生徒指導
・生徒一人ひとりの特徴や能力を把握することで、生徒や状況に応じた助言や対応をする。
・意見交換や話し合い活動を通して、他者に認められたり感謝されたりする機会を意図的につくり、自己有用感を高められるようにする。
・生徒の努力や取り組みや発言を賞賛したり共感したりすることで、自信や意欲を持って安心して授業に取り組めるようにする。
（４）展開過
時
〇学習活動
〇学習活動への支援・留意点
程
間
・予想される生徒の反応★努力を要する生徒への支援
☆おおむね満足できる生徒への支援把
5
〇前時の活動を振り返る。
〇企画書を高めるために必要なことは何かを握
分
〇本時の課題を立てる。
問いかけることで、意見交換の重要性に気づかせ、本時の課題をもたせる。意見交換を生かして、企画書を完成させよう。

〇グループに分かれて意見交換をする。
〇前時のグループをそれぞれ別のグループに

＜話し合いの進め方＞
分け、違った深めた視点をもったグループ

①前時に考えた質問を視点ごとに分ける。
を意図的に作り、意見交換をさせる。
追
25
・価格をどうやって決めたか。
〇話し合いが活性化するように、前時に深め究
分

・給料はいくらにしたか。
たい視点や教えてほしいことなど質問を明
・何人くらい従業員を雇ったか。
確にし、付箋紙に書いて用意させる。
・資本金はどこからいくら借りたか。
〇話し合いが速やかに進むように、司会者を・利益の使い道はどうしたか。
たて、司会者を中心に話し合わせる。
②質問に対して前時の話し合いを生かして〇話し合いの進め方が統一されるように拡大
答える。
したものを掲示し、教師から全体へ一度説・需要の多いものは高く、需要のないも明す
る。
のは安くした。
〇グループによって進度が変わるため、机間　・正社員は 25 万、ほかは時給 800 円。
支援で進行状況を把握し、適切な助言をす・正社員を少なく、アルバイトを多く。
る。
・銀行から 2000 万円借りた。

③答えられなかった質問に対してグループ＜③のグループへの支援＞
内で考える。
〇学習内容を生かした答えや考えがグループ・利益は設備投資、株主への配当、従業内
で出せるよう、振り返りシートや教科書、員の給料、借金の返済
ノートを活用させる。
④各自が発表した以外の視点を発表する。
＜④のグループへの支援＞

〇多面的な見方ができるよう、すべての視点
を発表するのではなく、こだわった点や今までに出てこなかった視点を発表するよう助
言する。　意見交換を生かして、企画書を完成させよう。
15
〇意見交換を生かして改善策、具体案を考★多面的・多角的な企画書になるよう、意
分
える。
見交換した内容を取捨選択させたり、多

くの立場で考えたりするよう助言する。

☆意見交換を生かして新たな改善策や具体案を自分の言葉でまとめるよう助言する。
〇前時と本時の変容が読み取れるよう、企画書に新たな視点や具体的な内容をまとめる
際は、前時までと別の欄に書かせる。【社会的な思考・判断・表現】（学習プリント）

〇意見交換を生かした内容が書かれ、多くの立場で考えられた多面的・多角的な企画書を作ることができている。
例工夫特産物を使ったものを看板メニューにする。→人気のものをランキングにして、メニュー選びの参考にしてもらう。
例価格ケーキは１個４００円→需要のないものは安く、需要のあるものは高くする。

◎意見交換を生かして自分の言葉でまとめられた内容が書かれ、多くの立場で考えられた多面的・多角的な企画書を作ることができている。
例流通農家から直接仕入れる→市場に出せない野菜を安く仕入れて使う。
例信用小麦粉は外国から安く輸入→美味しさ安全性を考え、小麦粉や野菜は国産のもの
振５
〇企画書を発表する。〇変化がわかるよう、追加された視点や深り分
まった内容を中心に発表させる。返り（５）成果と課題
成果
・単元を通した課題を設定したことで、生徒が単元を通して課題すべきことが明確になり、意欲的に取り組む姿勢が見られた。ほぼ全員が事前調査よりも経済に関する興味、関心が高くなっことがアンケート結果からも読み取れた。
・既習事項を生かしてまとめの活動を行ったことで、より効果的な振り返り活動になり、知識の定着や思考力・表現力の向上へ結びついた。
・グルーピングを工夫したことで話し合いが多面的、多角的なものになり、自分の考えを深める際に有意義なものとなった。
課題
・企画書を作成する際、生徒の考えが根拠に基づいた答えになっていなかった。
・企画書をつくるのに活用しづらい視点があった。

３　アンケート結果および分析

「めあての提示」と「振り返り活動」に関するアンケートを１学期と２学期に実施した。以下は６つのアンケート項目の結果を割合で表示し、各学年および全校ごとに１学期（点線）・２学期（実践）で比較したグラフである。

【６つのアンケート項目】

１「めあて」が示された授業は学習する気持ちになる
２「めあて」があると何を学習するか見通しがもてると思う
３「めあて」から自分の課題を見つけようとしている
４「振り返り」をすると学んだことが身につくと思う
５「振り返り」で疑問や興味をもったことを調べてみようと思う
６「振り返り」をしたことが家庭学習につながっていると思う

【アンケート結果数値から見る成果と課題】

１年

〇成果

・「めあて」により90%以上の生徒が学習の見通しがもてるようになった。

・「めあて」によって学習意欲がもてるという生徒が増えた。

・「振り返り」で疑問や興味をもったことを調べてみようと思う生徒が増えた。

・ほとんどの教科で目指す生徒像に「あまりあてはまらない」から「あてはまる」に改善している。

〇課題

・「めあて」から自分の課題を見つけることがあまりできていない。

・「振り返り」に肯定的な意見をもっている生徒は多いが，そのよさをきちんと実感している生徒（あてはまる）はどの項目でも減少している。

・英語では１学期より学習内容が難しくなり，書くことが苦手な生徒が増えつつあると思われる。

２年

〇成果

・めあての提示により、８０％以上の生徒見通しをもてるようになった。

・めあてから自分の課題を見つけようとする生徒が大幅に増えた。

・振り返りによって疑問や興味がもてたり、家庭学習につなげている生徒がわずかではあるが増えた。

・すべての教科において、いずれかの観点で成長が見られている。

・すべての教科で５割以上の生徒が目指す生徒像になれたと回答している。
・理科・英語では９割以上になった項目もある。
〇課題
・「めあて」の提示では、常に学習意欲を喚起するような「めあて」の提示の工夫が必要である。
・振り返りでは「学んだことが身についた」と生徒が実感できるような工夫が必要である。
・理科では学んだことを日常生活の現象と結び付けられるような指導の工夫が重要である。
・音楽では、３学期に器楽の学習を行い、目指す生徒像に近づけるようにする。
・全体的に学習意欲が低いため、学習意欲や必要感をもって学習に取り組めるような支援が必要である。

３年
〇成果
・「めあて」は見通しがもて、「振り返り」は学んだことが身につくと９０％以上が効果を実感している。
・ほとんどの観点で、よくあてはまると回答している生徒が増えている。
・国語の書く活動、社会の課題解決においては９０％以上の生徒がよくできている。
・前回数値の低かった理科は、どの観点も前回より数値が上がり、成果が見られた。
・どの教科においても、ほぼ７０％以上の生徒が目指す生徒像を達成していると感じている。
〇課題
・自分の課題を見つけるような「めあて」の工夫が十分でない。
・「振り返り」で完結してしまい、そこで出た興味や疑問をさらに発展させていくような工夫が十分でない。
・理科の仮説から課題を見つけさせたり、英語の学んだことをもとに書く活動における指導に課題がある。
・目指す生徒像をよく達成できた生徒とそうでない生徒に二極化してしまった。
・下位層の生徒への支援の仕方・意欲の持たせ方が課題となる。

全体
〇成果
・「めあて」の提示の工夫により９０％の生徒が見通しがもてるようになっている。
・「振り返り」活動の工夫において８０％以上の生徒が学んだことが身につくと感じている。
・どの教科においても目指す生徒像にあてはまると回答している生徒が増えた。
・ほとんどすべての教科で７割以上の生徒が目指す生徒像になれたと回答している。
・特に社会・理科・音楽においてはどの観点も成長を実感できている。
・どの教科も３観点の平均達成率が７５％以上である。
〇課題
・「めあて」の提示の仕方が形式化しないように、常に学習意欲を喚起するような「めあて」の提示の工夫が必要である。
・生徒が主体的に課題を見つけ出すような「めあて」を工夫していく必要がある。

・「振り返り」活動で完結ではなく、そこから生まれた新たな疑問や課題を追求するような工夫をしていくことも必要である。
・国語においては読みの活動を読書活動へと発展させていくような指導の工夫が必要である。
・理科においては、学習した内容と日常の現象を関係付けた指導の工夫が必要である。
・英語においては、英文を書くことを通して表現するような活動を工夫していく必要がある。

４　校内研修だより

校内研修だよりは、研修推進委員が一人１授業が終了した後、授業の提案内容や部会別研修で討議された内容や次回への課題をまとめ、全体に共通理解を図る上で大変有効なものであった。また、研修記録としても価値あるものとなった。
【研修推進委員中島教諭の実践から】
【研修推進委員鈴木教諭の実践から】

Ⅳ　研修のまとめと今後の課題

１　研修のまとめ

本年度から「学ぶ意欲を持ち続ける生徒の育成」を研修主題とし、めあての提示と振り返り活動の工夫を通して各教科で目指す生徒像の実現に向けて研修を重ねてきた。学ぶ意欲を持ち続ける生徒像を各教科で具体的に示すことで、評価規準が明確になり、より具体的に生徒の変容を見取れるようになった。また、単元全体を貫くめあての提示と振り返り活動と単元を構成する１時間単位でのめあての提示と振り返りとの関連性を単元指導計画の段階で意図的・計画的に仕組むことで、生徒が意欲的に学習活動を行うようになっていった。生徒のアンケート結果の分析から分かるように、学習に対する見通しがもてるようになり、学習内容を理解しやすくなったという生徒が増えた。また、振り返り活動を工夫することで、学習内容をより深く理解することができるようになった。以下に本研修における成果をあげる。
〇生徒に１学期と２学期後半の２回アンケートをとり、各学年、各教科ごとに目指す生徒像の実現の状況を自己評価させた。評価結果からどの学年も本研修の指導法が生徒にとって、学習内容を理解する上で有効だったことがわかる。
〇職員が協働体制のもと、役割分担を責任を持って果たし有意義な研修体制ができた。
・一人１授業の実践を通して、教師が様々な指導法の工夫を凝らして、生徒の学習意欲を向上させようとしたことは、指導力の向上につながった。
・提案された授業後に、部会別研修で研修内容にそった検討会を行い、常に課題修正しながら、次回の授業者に引き継いでいったことにより、回を重ねるごとに充実した実践が展開されるようになった。
・授業提案が行われた後に、研修推進委員から「校内研修だより」を通して、他の部会にも情報提供したことは、学校全体が共通の課題意識のもと研修を進めることができた。また、よき実践は積極的に取り入れていくようにお互いの研鑽を高めあうことができた。
・授業参観で座席表を活用することで、教師に生徒の変容を見取る視点ができ、そこから授業の分析ができるようになった。

２　今後の課題

めあての提示と振り返り活動を通して、学ぶ意欲を持ち続ける生徒の育成を目指したわけだが、めあての提示や振り返り活動に研修の焦点が向き、学習過程の支援の工夫等の扱いがあいまいになるところがあった。学習過程の全ての段階で、学ぶ意欲を持てるような工夫があるべきだが、副主題内容に特化してしまう傾向にあったことは来年度以降の課題である。以下、本研修を終えての今後の課題をあげる。

〇学習意欲を評価していくことは難しいことであるが、意欲は学習を進める上での源であるので、今後も学習意欲をいかに向上させていくかが課題である。

〇生徒の学習意欲を喚起する要因と教師が指導しなければならない内容が合致しているとは限らないが、生徒が学習したくなる状況を仕組んでいく指導法の開発は今後も課題である。